

和歌山大学南紀熊野サテライト  
開設 10 周年記念誌

和歌山大学



# 和歌山大学南紀熊野サテライト 開設10周年記念誌

和歌山大学

## 目次

2	刊行に寄せて	10年間の成果をもとに未来へ
3	第1部	南紀熊野サテライト10周年に寄せて
18	第2部	南紀熊野サテライト 資料編

## 刊行に寄せて 10年間の成果をもとに未来へ

和歌山大学名誉教授／元南紀熊野サテライト長

大泉 英次



南紀熊野サテライトが10周年を迎えられたこと、心からお慶び申し上げます。私は設立以来9年間サテライト長を務めました。職責にふさわしい働きはできませんでしたが、この経験は私の大学教員生活にとって忘れることのできないものとなりました。

南紀熊野サテライトは2005年4月に紀南サテライトとして発足したのですが、それは大学に対する和歌山県からの強い働きかけがあつてのことでした。2001年2月、当時の和歌山県木村良樹知事と守屋駿二学長との懇談会で、「大学の紀南分校をつくるぐらいの大きな位置づけを期待している」という知事の発言があり、大学に対して、紀南地域での高等教育機関の設置について強い要請があつたと聞いています。そして早くも同年7月に、田辺市に建設が計画されていた県立情報交流センター（ビッグU）に大学のサテライトを設置することが合意されたのです。

さて、多数の国公私立大学がサテライトを運営しているなか、南紀熊野サテライトはきわめてユニークな特徴をもっています。

第1は、地方都市・農山漁村に大学が根をはろうとする「地方型サテライト」であることです。

第2は、その運営が地域の自治体や住民の皆さんとの連携に支えられていることです。

設立当初は学部・大学院授業の開講で精一杯の状態でしたが、2008年以降、専任の地域連携コーディネーターが配置され、生涯学習・地域連携、研究支援、大学広報と多彩な事業展開が進みました。2009年には、自治体職員や受講生代表の皆さんとの協議を通じてサテライト「みらい戦略プラン」「アクションプログラム」が策定されました。これは地域と連携したサテライト運営を実質化するという意味で大きな前進でした。

第3は、南紀熊野サテライトの活動が各大学の地域連携コーディネーター交流のきっかけとなったことです。

2010年12月、南紀熊野サテライト設立5周年記念事業とあわせて、各地の大学サテライトで活動する地域連携コーディネーターの交流会が行われました。さらに2012年7月、和歌山大学が主催する第1回「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」が開催されました。同セミナーの開催は2015年までに4回を数え、いまや和歌山大学は地域連携コーディネーターの全国的なネットワークの拠点となっています。

10年を振り返ると、南紀熊野サテライトは「地方型サテライト」の1つとして試行錯誤を続けながら、様々な成果をあげてきたと思います。大学の地域貢献が強く求められる今日、南紀熊野サテライトが和歌山大学にとってきわめて重要な資源であることは疑いありません。

しかし、これからの5年、10年は和歌山大学と南紀熊野サテライトにとって厳しい試練の時期になることも明らかです。大学と地域がともに知恵と力を出し合い、新たな未来を切り開いていくことを切望いたします。

## 第1部

南紀熊野サテライト10周年に寄せて

## 南紀熊野サテライト10周年に寄せて

和歌山大学長  
瀧 寛和



このたび、和歌山大学南紀熊野サテライトが10周年を迎えるにあたり、南紀熊野サテライトをこの10年間ご支援いただきました和歌山県と紀南地域の自治体の皆様、そしてサテライト受講生とその同窓生の皆様に感謝を申し上げますと思います。

また、大学本部と離れた紀南地域において、限られた人員で、懸命にサテライトの運営に取り組んできた教職員スタッフにも感謝の気持ちを伝えたいと思います。

さて、2002年から2003年にかけて、和歌山大学がサテライト設置を検討するにあたり、学内の教務委員会（当時は、第3常置委員会）に、サテライトキャンパスに関するプロジェクト委員会が設置されました。当時、私はシステム工学部の教務関係を担当しており、この委員を務めておりました。この委員会と和歌山大学地域懇談会によるサテライト設置構想では、以下の役割と位置づけを定めました。

「地域課題に対応した地域連携・貢献」を推進するため、和歌山大学の知的資源を活かして組織される“シンクタンク”と有機的に結合し、紀南における地域連携・貢献に関わる教育と研究および地域課題に対応した事業に参画するための拠点とする。

そして、委員会では、先行する鹿児島大学のサテライトを調査し、様々な知見を得ました。中でも鹿児島大学が、離島や大学から離れた地域にサテライトを設置していたことが大変参考となりました。また、大学や大学院の講義の実施の状況についても非常に参考にさせていただきました。また、この委員会で、現在サテライトのあるBIG-U建設予定地を見学したことも懐かしく思い出されます。

和歌山大学は、「地域を支え、地域に支えられる大学」を目指して、サテライトを運営してまいりました。そして、今後は、さらに一歩進んだ形として、「地域と融合する大学」になるべく教職員、学生が一体となって、地域の皆様とともに地方創生に邁進して参りたいと思っております。

今後とも、和歌山大学ならびに南紀熊野サテライトへのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 南紀熊野サテライト10周年に寄せて

和歌山大学理事・地域創造支援機構長  
呉 海元



和歌山大学が和歌山県からの支援を受け、平成17年4月から南紀熊野サテライトを開設して、今年で10年になります。この10年は、田辺市周辺11の自治体のご支援のおかげで維持発展することができましたので、関係の皆様へ深く感謝いたします。

今年の4月から和歌山大学の執行部は一新し、瀧学長のリーダーシップの下、地方創生の推進機関として、COC+推進室（準備室）を設置しました。地域貢献に関わる学内附属機関の再編を通じ、南紀熊野サテライトもミッション再定義し、従来にも増して、地域創生に貢献できるように、機能を充実させていきます。

まず、南紀熊野サテライトは紀南の小中高への情報発信拠点として機能を充実していきます。その一環として、紀南の高校生に和歌山大学の魅力を伝えるために、南紀熊野サテライト10周年記念イベントの時、大学・学部などの紹介を開催することを計画中です。

そして、和歌山の未来を切り拓く若者が地元で活躍・定着してくれる学生を増やすために、入学者枠に紀南からの受験生を対象にした入学特別枠をもうけます。最初は教育学部が来年度の推薦入試に「地域（紀南）推薦枠」を導入します。教育学部の「地域（紀南）推薦枠」では、大学入試センター試験を課さなく、小論文と面接などの個別学力検査で合否を決める方式を採用しています。今後とも、和歌山大学の南紀熊野サテライトのご支援を賜りますようお願いいたします。

## 「知の拠点」としての確かな実践へ

和歌山大学南紀熊野サテライト連携協議会長／田辺市長

真砂 充敏



この度、和歌山大学南紀熊野サテライトが、10周年という節目の年を迎えられましたこと、心からお喜び申し上げます。また、当協議会におきましても、南紀熊野サテライトの活用促進、ひいては紀南地域の活性化を目的として共に歩んでまいりました。改めまして今日に至るまでの関係各位のご尽力に深く感謝申し上げます。

さて、当サテライトは、大学院授業や学部開放授業の実施をはじめとする高等教育を中心として、地域の課題やニーズに応じた地域研究、生涯学習、産官学連携など様々な観点による活動を展開されてきておりますが、なかでもやはり昨今の地域が抱える高齢化や過疎化、災害といった課題への地域住民の関心が高まっていることと、一方では魅力ある資源を生かした地域づくりに取り組もうとされる方々が、その手法やアイデアを学び実践しようとしていただいているのではないかと感じております。

今後におきましても、そうした学びを必要とする人々や地域に対する「知の拠点」として、紀南地域の発展のため、その一翼を担っていただきますとともに、学びの場の提供に留まらず、研究や知識に裏付けされた確かな実践へと結びつけられるサテライトでありますよう期待いたします。当協議会といたしましても、それらの実現に向け積極的に連携した取組を進めてまいりたいと考えております。

結びに、10周年の節目を機に和歌山大学南紀熊野サテライトの更なる発展を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

## サテライトの10年と今後の飛躍のために

和歌山大学南紀熊野サテライト長／経済学部准教授

中島 正博



和歌山大学南紀熊野サテライト（設立時、紀南サテライト）が10周年を迎えました。受講生や地域のみなさん、本学教職員の先輩・同僚の、幾多の努力の積み重ねがあっただろうことだと痛感しています。

本サテライトは、紀南に高等教育機関をという強い願いのもとに設置されました。その願いは当時も今も、おそらく今後も変わらないと思います。では、なぜ、地域に高等教育機関が必要なのでしょう。

1985年に採択されたユネスコ「学習権宣言」という文書があります。人はなぜ学習するのかと問い、「学習は基本的人権の一つであり、人々をなりゆきまかせの客体から、自ら歴史をつくる主体にかえていくものである」と宣言しました。

この宣言は、成人教育、社会教育・生涯学習に関するのですが、複雑な現在社会において、自らの歴史・人生と地域をつくっていくためには高度な専門知識が欠かせないという意味で、高等教育にもあてはまるでしょう。そのような学びの場を提供すると同時に、地域に必要な専門分野を研究していく。こうしたことが地域と融合する大学の姿であり、南紀熊野サテライトのすすむべき道なのだろうと考えています。

何年も何十年もこの先の未来も、地域とともに歩んでいきたいと思っています。

## 和歌山大学南紀熊野サテライト開設10周年記念に寄せて

元和歌山大学地域連携・地域支援コーディネーター

前田 弘信

サテライト開設10周年記念、誠におめでとうございます！ 私は2003年8月1日～2006年7月31日までの3年間、学長裁量ポストの名のもとに標記の職名で任用されました。紀南サテライトの他に、岸和田サテライト設置業務や観光学部設置の事前関連業務や国際交流にも関与しながらの日常の中、本当に忙しい3年間でした。ところで、当時の和歌山大学の紀南における地域との関係は経済学部と田辺市を中心とした熱い有志との連携で始まった「きのくに活性化支援センター」を拠点に活発な地域連携が行われ、更なる充実を目指していたようですが、その後「紀南サテライト」が設置されたものの、大学の紀南に対する新しい組織的一元的な動きは、必ずしも地域の熱い有志の方々には満足のものではなかったようです。それは、大学が次元を高くしようとすればする程、地域にとっては機能的な側面や希望する具体的な方策から遠ざかっていくように見えたからだとの想いを強くしたものです。勿論地域にも少数の熱き志士を除いてその要因がないとは言えませんが、その大学の責務について、地域から大学に戻るとよく当時の学長室を訪れ、夜遅くまで議論したことを思い起こします。ともあれ、「紀南サテライト」に大学院や学部機能が公式に開始され、一定の地域歓迎を受けつつも、益々、「きのくに活性化支援センター」との二極化が進みつつ、地域自身もまた本来の同センターへの夢から遠のいて行ったように見受けられました。それは、各地域の拠出金の減少化からも垣間見えることでした。私にとって紀南業務を離れて既に一昔前の思い出となった現在、サテライトが現在どのような連携をされているのかその具体的な実効性を知る由もありませんが、視野を紀伊半島広域に拡大して「南紀熊野サテライト」に改称されていることは大いに喜ばしい限りではあります。願わくは、そのことが名実共に、地域の真の発展に連携しsustainable（継続できる）なものであってほしいと祈念します。最後に、私自身は地域連携の業務に従事しながら、大学内部関係者との協力が余り得られず、内部連携なくして何が地域連携だとの想いがありましたが、一方、独自に一步一步足で稼ぐしかないと覚悟を決め、野越え山越えして得た地域の多くの方々との熱い交流が私の宝でした。今もその宝のお蔭で様々な情報協力や恩恵を被っており感謝しております。最後に、僭越ながら、技術革新が進めば進む程、自分の足で稼ぐ必要さとサテライトの有する本来的な意義を顧みることを提言したいと思います。



## 和歌山大学南紀熊野サテライト10周年に寄せて

「天神崎の自然を大切にする会」理事/元サテライトプロジェクトコーディネーター

玉井 済夫



田辺市のビッグ・ユー内に、和歌山大学紀南サテライト（現在の南紀熊野サテライト）ができて、大学・大学院の講座、さらに紀南地域に関連した講座が開かれることになった。この時、私は、このサテライトの開設と講座内容について、地域の皆さんに広報する役割の一端を担うことになり、サテライトの開設業務を担当されていた中筋章夫氏とともに、2004年12月～翌1月の間、御坊市から南の市役所・町村役場・教育委員会及び主な企業等を集中的に周り、説明書・ポスター等の諸資料を届け、担当の方々にサテライトの意義・講座内容等を説明し、ご理解と受講生の参加への協力をお願いした。大学のことはよく分らない私であったが、皆様方の熱い思いとともに、自分の役割を果たそうとした。

あれから既に10年が経過した。その間、田辺市の合併、南紀熊野ジオパークの国内登録、吉野熊野国立公園の拡張（2015年）等の大きな変化があった。

こうした環境の中で、南紀熊野サテライトの役割はますます大きくなっていることを思い、学術講座を身近に学ぶ場として、また、この地域の自然・歴史・文化・生活・産業等を学ぶ場として、さらに広がり深まることを期待している。

## 和歌山大学南紀熊野サテライト10周年に寄せて

公益財団法人 南方熊楠記念館常務理事・館長/和歌山大学非常勤講師

谷脇 幹雄



南紀熊野サテライト10周年お祝い申し上げます。

私が和歌山大学と初めて関係を持ったのは33年前、県庁企画室主事の頃で新しい長期計画策定のため県民意識調査を実施した結果、今後必要な施策として「高等教育機関の整備」が2位になり、和歌山大学をはじめとする「大学」の充実が期待されていることがわかりました。

翌年(財)和歌山社会経済研究所へ研究員として出向し、和歌山大学経済学部跡地の活用方策の検討調査を担当し、県立図書館・文書館・文化情報センターを含む「志学館」と「サンピア」の誘致を提案しました。また、これと連携するかたちで和歌山大学松下会館を生涯学習の拠点として整備することを提言しました。これがサテライトの原点であると自負しています。

その後、行政・経済団体・有識者等による「和歌山大学理工系学部設置期成会」の事務局を担当し、現在の「システム工学部」設置に結びつき、「観光学部」や「サテライト」の設置についても側面的にサポートできたことは嬉しい限りです。

また、サテライトで多くの単位を取得し「経済学修士」を得ることができました。現在、私が非常勤講師として多くの若き学徒に「思い」を伝えることができるようになったきっかけです。

また、「プロジェクトコーディネーター」として県民生活課と共催の社会人向けの講座を企画し好評を得られたことも思い出されます。

「南紀熊野サテライト」が地域との連携の拠点となることを祈念いたします。

## 祝辞



上富田町長  
小出 隆道

南紀熊野サテライト開設10周年おめでとうございます。

発足当時の和歌山県は、「北高・南低」という言葉で表現されるように、県北部地区は、人口、経済活動共に高く、一方、南部地区は低いといわれ、南部地域は人口が減少して過疎化が進んでいましたので、南紀地域の発展を望んでいました。その時に「紀南地域の活性化、文化の向上」を目的に和歌山大学の協力の基に創設されたことは誠に嬉しい限りでした。その後の活動は、人材の育成を主に地域の観光資源、文化の掘り起こしから情報発信と素晴らしい活動をされています。特に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」が指定されてから南紀熊野地区の方々と共に情報発信に努めていただき感謝しているところであります。次に、昨年、南紀熊野ジオパークが日本ジオパークとして認定されました。この南紀熊野地区には世界にも誇れる大地の恵みを受けたジオサイトがあります。上富田町も町の中心を流れる富田川の市ノ瀬、下鮎川河川段丘や救馬溪観音の砂岩礫岩層と畑山・山王潜水橋等のジオサイトがあります。又、上富田町は、これらの観光資源とともにスポーツ観光の推進に取り組み、多くのスポーツ愛好者が上富田町を訪れています。これらの資源を活用して他地域の方々との交流が南紀地方の活性化につながります。その指導をしてくれる「南紀熊野サテライト」の役割は、益々、増大することも考えられ、人材の育成と情報発信をしていただけるようお願いしてお祝いの言葉とします。

## 和歌山大学南紀熊野サテライト10周年寄稿



新宮市長  
田岡 実千年

和歌山大学南紀熊野サテライトが「創立10周年」を迎えられましたこと心よりお祝い申し上げます。

貴学関係各位におかれましては、平素から高等教育、地域研究、生涯学習並びに地域連携の拠点として、本市はもとより、南紀・熊野地域に対するご貢献を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本年10月、新宮市も南紀熊野サテライトと同様、旧新宮市、熊野川町の合併から10周年を迎えました。

本市では「人輝き文化奏でる都市」を目指すべき都市像に掲げ、「ひと」や「まち」が文化を磨き、まちのいたるところで新宮らしさがキラリと光る。そんなまちづくりを目指して、この10年を歩んでまいりました。そして、これからも理想のまちづくりに向けて、休むことなく歩を進めていかなければなりません。

そのためには、貴学が持つ高度な知的資源とサテライトが培った地域とのつながりを合わせた、まさに「知の拠点」としての実力を十二分に発揮していただき、本市並びに地域のまちづくりに引き続きお力添えを賜りたいと大いに期待を寄せるところであります。

末筆となりますが、南紀熊野サテライトの運営に携われた皆様方、南紀熊野サテライトの運営に携われた皆様方のこれまでのご労苦に深く敬意を表しますとともに、今後益々のご発展を心よりお祈り申し上げ、10周年のお祝いとさせていただきます。

## 和歌山大学南紀熊野サテライト10周年に寄せて



白浜町長  
井潤 誠

南紀熊野サテライト設立10周年を心からお慶び申し上げますとともに、記念誌の発行をお祝い申し上げます。南紀熊野サテライトが紀南の地に開設され、記念すべき10年を迎えました。和歌山大学をはじめ、関係者の皆様の取組みに心から敬意を表します。今日まで果たされた南紀熊野サテライトの地元への貢献と意義は計り知れないものがあります。紀南地方には大学がありません。学びたくても近くに大学がないため、遠方に通わなければならないのが実情です。それを南紀熊野サテライトが補ってくれました。

私自身も和歌山県教育委員会主催の「マナビイスト紀南セミナー」を受講し、防災や観光について学ぶことができました。受講生の年代も幅広く、相互交流が深まるなど貴重な学びの体験となりました。今や南紀熊野サテライトは当地になくはならない存在となっています。これからも「紀南にサテライトあり！」と声高らかに誇れる「知の拠点」として、紀南地方における活力ある地域づくりや生きがいづくりに貢献していただければ幸いです。

最後になりますが、10周年の節目を契機に南紀熊野サテライトが利用者のニーズに応え、将来に向かってさらに発展することを期待いたしますとともに、関係各位のご健勝、ご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 和歌山大学南紀熊野サテライト10周年に寄せて



和歌山県企画部長  
高瀬 一郎

和歌山大学南紀熊野サテライトが開設10周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

和歌山大学南紀熊野サテライトは、全国でも珍しい地域型サテライトとして、平成17年4月に県立情報交流センターBig・Uに開設されました。

以来10年にわたり、延べ800名以上の方が地域の歴史や文化などをテーマとした大学院科目・学部開放科目を受講され、うち7名の方が経済学修士を取得されるなど、紀南地域の高等教育環境の充実に大きな役割を果たしてこられました。

また、観光や防災、環境など、地域の課題を取り扱った公開講座や調査研究にも取り組まれる一方、地域づくりにも積極的に参画されるなど、地域連携の拠点として、紀南地域の発展に多大な貢献をされています。歴代の学長やセンター長をはじめ、関係各位のご尽力に深く敬意を表する次第です。

さて、本県では今年6月、「和歌山県まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少の抑制や“元気”を持続できる和歌山の創造に向けた取組を進めており、貴サテライトには、紀南地域唯一の高等教育機関として、人口減少時代に合った地域づくりにより一層貢献されることを大いに期待いたします。

最後に、関係の皆様の一層のご活躍と、和歌山大学南紀熊野サテライトの今後益々の発展を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

## 和歌山大学南紀熊野サテライト10周年に寄せて



田辺市企画部長  
松川 靖弘

このたび、南紀熊野サテライトが10周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

これまでの間、南紀熊野サテライトにおかれましては、この紀南地域において、特色ある高等教育の提供をはじめ、生涯学習の推進や地域の活性化に向けた実践活動を展開され、その中で、地域を支える人材の育成に大きく寄与されてきたと考えております。

さて、私自身、貴サテライトに深く関わらせていただいたのは、5周年を目前に控え、ちょうど今後のサテライトの方向性を示す「みらい戦略」をつくっていかうとしていた頃でした。当時、関係の皆さんと議論に議論を重ねて、この戦略を策定したことが昨日のここのように思えます。現在、この戦略が2期目の終盤に差し掛かり、さらに3期目へと展開されると聞き、大変うれしく思っております。

現在、国と地方では地方創生への取組が始まっています。これは、人口減少と地域経済の縮小を克服するとともに、まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立を目指していかうとするものですが、この中で、やはり中心は「ひと」であり、地域課題の解決を担う人づくりなどを展開されてきたサテライトの役割は、これまで以上に大きくなると思います。

今後とも、当地域との更なる連携をお願いするとともに、地域に根ざした知の拠点として、ますます発展されることを祈念いたします。

## 和歌山大学南紀熊野サテライト10周年に寄せて



新宮市企画調整課長  
新谷 嘉敏

和歌山大学南紀熊野サテライト「10周年」誠におめでとうございます。

これまでサテライトの運営に携わってこられました関係の皆さま方のご努力に深く敬意を表します。

さて、私自身もサテライト企画運営委員として約3年間、微力ながら運営に携わらせて頂きました。

その間、新宮市職員として、いかに「地域の活性化を図ることができるか?」「サテライトと地域の連携を図れるか?」を常に念頭に置きながら委員や事務局の皆さま方とサテライトのあり方や果たすべき役割について議論を交わしてまいりました。

サテライト設立から10年、これからも「地域を支え、地域に支えられる大学」を目指す和歌山大学の皆さま方、特に学生の皆さんには、これまで以上にキャンパスを飛び出して「地域」との交流を深めていただきたいと思います。

その中で、学生ならではの視点と行動力により「地域の可能性」を全国へと発信し、地域に更なる活力をもたらして頂けることを期待しています。

また、その姿から、これからの「地域」を支える子供や青少年たちにも何かを感じ取ることが出来るのではと思っています。

これからも南紀熊野サテライトが紀南の地域づくりの拠点として、ますますご活躍されますようご祈念申し上げます。10周年のお祝いとさせていただきます。

## 開設10周年に寄せて

和歌山県農業協同組合中央会連合会会長  
紀南農業協同組合会長

中家 徹



和歌山大学南紀熊野サテライトが紀南の地に開設され、この度10周年を迎えられましたこと、衷心よりお喜び申し上げます。

特に、紀南地域の活性化を目的に設立された「きのくに活性化センター」の開設に関わってきた一人として感慨深いものがございます。

この10年間、初期の目的である紀南の地域づくりに貢献しようと、多彩なスタッフ・講師陣により幅広い事業・活動を展開され、人材育成に大きな力を発揮されました。

紀南に住む者として、スタッフはじめ関係者の皆様にあらためて心から御礼と敬意を表します。

地方が元気にならなければ、国の発展はありません。

都市と地方の格差拡大が問題視されて久しいのですが、今もなお、解消に至らず、紀南地域も例外ではありません。

しかし一方で、紀南地域はブランド力ある農産物はじめ豊富な観光資源等、発展の可能性を秘めているのも事実であります。そして、それを実現させるのは人であります。

現在、国の施策として地方創生が叫ばれていますが、そのカギを握るのも人材であります。その意味でも紀南地方の人材育成の拠点として、南紀熊野サテライトの果たすべき役割はますます重要になってきます。

開設10周年という節目を契機に、今後20年、50年とますます充実・発展し、我々紀南地域にとってなくてはならない存在価値のあるサテライトとなることを祈念申し上げます。

## 地域のなかで、両輪で歩んだ10年

きのくに活性化センター事務局長

鈴木 裕範



きのくに活性化センター（以下、活性化センター）は、紀南地域の全自治体（当時は19市町村）と田辺・新宮の両商工会議所、JA紀南、和歌山県そして和歌山大学が参画し、2002年4月に開設された。目的は、過疎化、人口減少、地域経済の低迷など紀南地域が多くの困難な課題に直面するなかで、大学と地域をつなぎ、産官学の連携・協同で解決に向けて調査研究に取り組んでいくことにあった。現在、地方創生の課題にせりあがっている「廃校舎問題」「UIターン」調査を進めている。

和歌山大学は、活性化センター設立と同時に学内に経済学部教員を中心にした、きのくに活性化支援センターを設置して参画し、紀南サテライト開設後は支援センターを「発展的に解消」、コーディネート事業をとおしてセンター「離脱」で芽生えた地元の懸念に伝えてきた、と受け止めている。

地方創生が叫ばれるいま、地域が期待する大学とは？ その答えを、センター設立時に抱いた大学人の思いの中に見出すことが可能である。「地域と大学を結ぶ拠点」は「地域に寄り添い、地域から学ぶ存在」である。「地域の声を聞くだけではだめだ」。これは、次の10年に向けて歩み出す南紀熊野サテライトへの、きのくに活性化センターに課せられたテーマだと思える。

## 紀南サテライトの誕生プロセスと成長への期待



和歌山大学名誉教授（元理事／副学長）

藤本 清二郎

誕生に関する過去の事実経過はほとんどが忘れられ、すでに記憶する人がいないように思われる。私はサテライトが誕生するまでの大学の責任者・担当者であった。紙面を与えられたのでここに証言を残しておくこととする。

サテライトが生まれるに当たっては、いくつかの流れがあった。初発の動きは2001年の和歌山県のITセンター（現ビッグU）設置と知事からの紀南田辺地域への高等教育機関誘致であった。これを受けて、守屋学長を引き継いだ小田学長は当時盛んと成りつつあった大学サテライトを大阪側にはなく、逆向き発想で県南部に設置しようとした。この背景として、2001年頃からの、紀南を対象とした「きのくに活性化支援センター」の設置、地域連携の動きがあった。また文部科学省の重要な政策として自治体を連携相手とした地域貢献支援事業（競争的資金）で、サテライト設置を含むプロジェクトが採択され、これによって促進された。一言で言えば、和歌山県の提案、地域の期待と、和歌山大学の地域に根ざす大学づくりとが相まってサテライトは誕生することが出来たといえよう。

小田学長時代の副学長として、2002年8月就任後から、法人化後理事としての2005年2月までサテライト誕生に中心的に関わったが、誕生の道筋は平坦ではなかった。大きな課題は三つあった。まず一つ目は、県の要望は学部進出であったが、和大的な体力と制度の制約で実現困難であり、大学院科目の開講が中心となった。二つ目は、「きのくに活性化センター」の位置づけであった。結局同センターを大学の関連機関とし、同室への入居となった。同センターは地域と大学をつなぎ、サテライト誕生に果たした役割は大きかった。三つ目は、大学内のどの教育組織に位置づけるかという課題であり、これは鹿児島大学のサテライト方式を学び、経済学研究科の進学（単位化）を可能とする科目等履修とした。この他、和歌山市から遠く離れた出先地での教育環境の整備（図書利用や教職員派遣等）、担当教員インセンティブ等、条件整備は容易ではなかった。

しかし、諸々の工夫により、困難を乗り越え、2005年4月から学生募集を開始した。そして今日に至っているが、それはこの間の関係者の努力の賜物であろう。生みの親という立場で敬意を表したい。取りわけ和歌山県から絶大な支援を戴いたことを記録し、遅まきながら感謝したい。

ここまでつづいたのは、地域ニーズに大学が対応したからと理解される。構想過程では高等教育機関シンクタンク構想や専門職業人材養成の課題も議論されたが、先送りとなった。今日の「人文社会系大学不要論」の中で、「であるからこそ」サテライトの今後のさらなる発展を期待したい。

## 地域資源のたくさんある南紀熊野を誇りに

和歌山大学教育学部

此松 昌彦



この度は10周年おめでとうございます。和歌山県南部の大学拠点として存在しているのは嬉しい限りです。

最近の私の関わりでは、和歌山県内のジオツーリズムの研究、地元地域資源を見直す「紀州郷土学」や大学院講義、ジオカフェなどへの参画です。もともと私の専門は地質学で、和歌山県の地質や地形を学生たちに教えています。初めて熊野川を訪れた時の雄大さ、橋杭岩など他にない景観に感動しました。和歌山県内のジオツーリズムの研究を始めたのが2011年からでした。それは和歌山県内のどこかには、ジオパークになるような素材があると考えていたからです。またちょうどその頃に南紀熊野でジオパークにしたいという自治体や民間の方たちと合流し、南紀熊野サテライトで実施したジオカフェや紀州郷土学によって、地域の皆さんがジオの関心を高めることにもつながったと思います。間接的に昨年の南紀熊野ジオパークへの認定にも少なからず貢献したかもしれません。

この経験から考えると地域の研究成果があつて、それと地域の皆さんとの協働によって新しいことができていくのでしょう。大学と地域を結ぶ地域拠点として南紀熊野サテライトの発展を祈念します。

## 南紀熊野サテライトが結ぶひと・地球・宇宙

和歌山大学観光学部

中申 孝志



南紀熊野ジオパーク設立をきっかけに立ち上げた小規模イベント「ジオカフェ」は、科学コミュニケーションの新しい形として世界中で盛んに取り組まれている「サイエンスカフェ」の発想を持ち込んだものです。研究者と一般市民が対等に双方向の会話をする場です。ここでは科学的内容を解説するよりも、ともすれば現実離れした仙人のような存在と思われがちな「学者」の等身大の姿を知って頂くことが大切だと私は考えています。それこそが大学が地域に受け入れられるための条件だと思います。

ひとの姿が見えることが受け入れられる条件だとすれば、その窓口にあたるサテライトオフィスにひとが常駐していることはとても大切です。そして実際の業務風景を見れば誰もが人員拡充を切望したくなるような状況ですが、不幸中の幸いというのか、結果としてワンストップサービスが実現されていて、この点は私たちユーザーにとってはありがたい。誰に相談すれば良いのかが明快であることは、新しい小さなアイデアを大きく育てるために極めて重要です。この構造を維持しての早期の人員拡充が望まれます。

私は南紀熊野サテライトを通じ、近年は地域と「地球」を結ぶ仕事をしていましたが、今後はさらに人工衛星などの「宇宙」と結ぶ仕事をしていくことになりそうです。「サテライト（衛星）」らしい仕事になればと思っています。

## 「地域と大学を橋渡しするということ」

和歌山大学地域連携・生涯学習センター  
(元南紀熊野サテライト特任助教・地域連携コーディネーター)

西川 一弘



「地域のニーズと大学のシーズを繋げること」、大学での地域連携ではよく語られる言葉です。しかし、「言うは易く行うは難し」というのはこのことでもあります。地域のニーズはさまざまですし、本学のシーズだけでは到底対応できないこと（例えば、水産系のニーズなど）もあります。スマートに繋がれた事例はそんなに多くなく、むしろ、地域や大学内調整で苦闘をしながら、なんとか繋げる方が多かったように思います。この時、私自身は大学学部生時代からの地域の繋がりに大きく助けられました。

私は地域連携職の95%は「泥かぶりの調整業務」だと思います。相手の想いを受け止め、実現を目指し、カウンターパートを探す、この繰り返しです。私の師からは「板挟みの美学」とエールを頂きました。まさにその通りだと思います。しかし、そのプロセスでうまく繋がり「新たな価値」が生み出された時の喜びは、何事にも代えがたい貴重な経験です。その新たな価値が南紀熊野地域の発展に繋がることを確信し、今後も継続的に「地域ステーション」として南紀熊野サテライトを強化・拡充していくためにも、「現場からの“障地拡張”」を期待しつつ、かつ私も共に努力してまいりたいと思います。次の10年を目指して…。

## 祝10周年、そしてこれから

南紀熊野サテライト同窓会長

溝口 博一



多くの先輩方が各方面から尽力された結果、開設以来10周年を迎えました。そのご苦勞を思う時、感謝の気持ちで一杯です。南紀熊野における高等教育・研究の拠点であるこのサテライトを多くの人々に活用していただきたいと願っています。そこで、この機会に身近な事柄から話題を提供したいと思います。

地方創成の旗を政府は振っています。でも具体策は「地方をよく知る地元の皆様」が考え実行してほしいとのこと。これは、過去の特別立法である過疎・山林・離島・豪雪・半島等と同じです。所詮、万能の神でもない政府は、地方のことは地方でとなるのです。このことは当然のことなのですが、案外、地方は「誰かが助けてくれるかも…」と甘く考えている気配もします。これではどうしようもありません。そこで地方が元気になるための出発点は何かと考えると、その解答は賃金を稼ぐということなのです。物事の最初から「儲けること」を目標にするのではなく「生活の糧を稼ぐ」ことこそ重要なのです。このような意味でのスモールビジネスを始めることが肝要です。

そこで、プランを考えたならばサテライトの門を叩いて下さい。和太には各分野の専門家がおられます。先生方を介して他大学や研究機関などに連絡を取ることも可能です。学問は生活から生まれるものですから、生活する具体策を生み出すために、和歌山大学の力を引き出そうではありませんか。



## い 入らなん 文の道深く



前南紀熊野サテライト同窓会長  
木下 幾雄

「緑の松に 清き水 やさしの花を鏡とし 強く正しく愛であいて 入らなん文の道深く」これは、私の小学校の校歌で、今も時々愛唱します。大変素朴で親しみやすく、「赤とんぼ」「叱られて」「赤い靴」らと同じ大正デモクラシー期の作です。現代も校歌として子供らに愛されています。

私が南紀熊野サテライトで学んだのは、2005年度前期の地域文化歴史研究、後期の地域教育研究が最初でした。百姓の合間を縫って楽しみでワクワクしながら通いました。どの講義も事前学習の書籍が紹介され、50枚の大学ノートにぎっしり一杯、それに講義資料がファイル一杯になり、私には真に「挑戦」でした。フィールドワークも、白浜の三所神社・新庄内之浦干潟・天神崎・ミュージアムみなべ・秋津野ガルテン・熊野古道・梅加工業場・生産農家など盛り沢山でした。地域環境研究、カントリーライフ学、現代の経済と金融、現代社会と法、地域防災研究、まちづくり研究、地域農林業研究、学校制度研究等を受講しました。物の見方や考え方に新たな視点が加わり、日々のニュース一つにも楽しみが増えました。ご苦勞を頂いた元サテライト長大泉先生をはじめ多くのご指導頂いた先生方に、事務局の先生方に、共に学んだ受講生の方々に感謝の気持ちを捧げたいと思います。

私の場合は浅い理解でしかあり得ませんでした。生き生きと楽しい挑戦・挑戦の毎日でありました。尊敬する先輩から「以文会友」達筆の額を、後日「書に寄せる思い」という小冊子をそれぞれいただきました。その中に、論語にある言葉で「曾子曰、君子以文会友 以友輔仁（君子は文、すなわち詩書礼楽の学問を以て友を集め、その集まった友の助けで仁道を行う）」、南紀熊野サテライトは真にこれなんだと思ひ幸せな気持ちに浸った次第です。

## 学べるときに学ぼう



サテライト経済学研究科修了生  
那須 正治

平成18年4月5日に和歌山市民会館で行われた入学式が懐かしく思い出される。前年度より科目履修生として学んでいたが、改めて本科生として入学したのだ。1185人の新入生の仲間に入り、小田章学長から激励の言葉を頂いた。紀南サテライト（南紀熊野サテライトの旧称）では、18人が受講を始め、本科生第1号が小生であった。

入学式直前に本校事務室から、紀南サテライトのオープンはニュースバリューが高いから、マスコミの取材があるだろうと予告されていたが、事実、朝日新聞と和歌山放送から取材された。翌、4月6日付けの朝日新聞和歌山版に写真入りで「68歳の本科生」と3段抜きで報じられていたのには驚いた。

サテライト長・大泉教授と橋本教授が論文指導に当たってくれ、平成19年3月に修士号が授与された。修士論文は、「地域経済活性化研究」で、内容は過疎化と林業の不振で疲弊していた山村の経済を活性化できないか、模索してのものであった。

さて、平均寿命に達する年になると、身体のあちこちが朽ち始めているのが自覚できる。特に、視力の衰えが著しい。最近、新聞を20分間読み続けると、目が痛くなってくるに及んで、学べるときに学んで良かった、と実感している昨今である。

## 南紀熊野サテライト10周年に寄せて

サテライト受講生

安宅 瑞晃

住まう地域のことを更に深く知りたい。そんな思いから和歌山大学南紀熊野サテライトで南紀熊野観光塾と学部開放授業を受講しました。歴史文化から環境や動植物、観光や地質、防災そしてシステム工学等、地域を基軸とし隣接分野まで体系的に学ぶことが出来るのは、大学ならではの実感しています。苦手分野であっても、初学にも適した講義と資料で触発されることも多く、地域への関心が深まりました。

最大の収穫は、和歌山を通時的に共時的に、そして大地の重層性から学ぶことで、表層に現れた事象の背後にある関係や諸相を意識化できたことです。とかく希少性が注目されがちですが、見慣れてしまった事物や習慣等地域では当たり前と思われている構成素が、かえって地域の「らしさ」や「営為」の基盤を形成しています。それが眠っている地域の魅力なのです。

紀南における貴重な学びと交流の場を提供して頂いている和歌山大学、開設にご尽力頂いた諸先生方、同窓会の諸先輩方、そして地域連携コーディネーターの皆様に満腔の感謝を捧げつつ、謹んで10周年のお慶びを申し上げます。

## 第2部

### 南紀熊野サテライト 資料編

1	和歌山大学南紀熊野サテライトについて	P18
2	和歌山大学南紀熊野サテライトにおける大学院科目・学部科目について	P18-19
3	南紀熊野サテライトの主な公開講座について	P20-22
4	沿革	P23-28
◆	サテライトの今後に向けて	P29

## 和歌山大学南紀熊野サテライトについて

和歌山大学は、和歌山県との連携に基づき、2005年4月、和歌山県立情報交流センター・ビッグユーに、全国の地域型サテライトのさきがけである「紀南サテライト」、現在の「南紀熊野サテライト」を開設しました。

南紀熊野サテライトは、大学の教育・研究機能を活用して地域社会と共に育ちあい地域づくりに貢献する「大学の地域ステーション」をめざすべく、4つの視点により、創造的な教育・研究・社会連携活動を行っています。

### ・南紀熊野サテライトにおける4つの事業

1. 地域住民の多様な教育ニーズに対応した特色ある高等教育の実施
2. 地域研究の推進および地域の課題を踏まえた生涯学習の機会提供
3. 地域自治体、企業等と連携した地域活性化に資する事業の実施
4. 高校を含めた地域に対する大学情報の発信

### ・南紀熊野サテライトにおける4つの視点

1. 地域の知の拠点として
2. 大学の知的財産は地域資源
3. 地域・産・学・官の皆が共に成長する仕組みづくり
4. 地域知の可能性を引き出す

## 和歌山大学南紀熊野サテライトにおける大学院科目・学部科目について

和歌山大学南紀熊野サテライトでは、大学院科目（経済学研究科）及び学部科目（主に教養科目）を以下のとおり開講しております。

### ・大学院科目の特色

1. 大学院の授業を原則、金曜日夜間及び土・日曜日の日中を中心に開講しております。
2. 入学資格は、大学を卒業した方または大学卒業と同等以上の学力があると認められた方で、書類審査等による選考があります。身分は「科目等履修生」となります。
3. 和歌山大学（栄谷キャンパス）及び岸和田サテライトの授業についても申請により受講可能です。
4. 南紀熊野サテライト科目等履修生として、一定の要件（期間や取得単位数等）を満たした場合、修士課程（経済学研究科）を受験し、進学することが可能です。

### ・学部科目の特色

1. 学部の授業を土・日曜日の日中に開講します。
2. 18歳以上（高校生除く）であれば誰でも受講可能です。身分は「学部開放科目受講者」となります。
3. 試験等による成績評価や単位認定はありませんので、興味・関心のある授業を受講するかたちとなります。
4. 和歌山大学（栄谷キャンパス）及び岸和田サテライトの授業についても申請により受講可能です。
5. 受講者登録の有効期間は4年間です。登録後の8学期間（2学期×4年）は、科目ごとの聴講料のみで受講が可能です。

### ・科目一覧、南紀熊野サテライトにおける修士課程修了者数一覧

次のページのとおりです。

南紀熊野サテライト開設授業科目一覧

南紀熊野サテライト 大学院受講者数					
区分		科目名	受講者数	計	
大学院科目	H17	前期	循環型地域経済研究	6	17
			地域歴史文化研究	6	
			地域情報ネットワーク研究	5	
	後期	前期	地域居住福祉研究	4	10
			地域教育研究	3	
			地域情報化研究	3	
	H18	前期	企業経営学研究	6	15
			地域環境研究	6	
			情報セキュリティ研究	3	
	後期	前期	地域観光学研究	7	16
			まちづくり研究	5	
			地域防災研究	4	
	H19	前期	学校制度研究	3	15
			地域農林業研究	6	
			観光文化研究	6	
	後期	前期	自然環境・環境保全研究	4	15
			国際経済研究	4	
			カンントリーライフ学研究	7	
	H20	前期	観光と経営の諸問題	7	24
			現代の経済と金融	10	
			都市景観と歴史・社会	7	
	後期	前期	現代社会と法	9	29
			紀南の自然研究	12	
			都市・地域・生活環境の計画	8	
	H21	前期	地域産業クラスター論	5	33
			地域づくりとデザイン・イメージ・サイエンス	9	
			熊野の近代ツーリズムと風景認識	12	
	後期	前期	食糧生産の技術科学	7	10
			デザイン情報学	5	
			地域農業活性化論	5	
	H22	前期	着地型旅行の作り方	7	25
			世界と日本のマクロ経済	10	
			観光まちづくり研究	8	
	後期	前期	情報科学概論	4	12
			地元学特論	4	
			異文化交流	4	
	H23	前期	農村漁村探訪	6	15
			社会、経済と企業の統計分析	4	
			歴史的都市の研究法	5	
	後期	前期	紀伊半島学	5	17
			観光の現状と課題	5	
			アジア経済の最新動向	7	
H24	前期	環境・自然エネルギー革命：“環境”と“防災”を統合した地域づくり	7	15	
		観光サービスとホスピタリティ	3		
		地域と教育・発達支援—地域の子どもたちをめぐる発達と教育	5		
後期	前期	住民自治と地域社会	9	19	
		着地型観光と地域振興	4		
		紀伊半島学II—地域の豊かさとその持続性	6		
H25	前期	歴史的環境と地域づくり	4	13	
		地域と教育・発達支援II	4		
		現代社会と民法	5		
後期	前期	産業と地域経済	3	5	
		情報通信システム概論	2		
		地域観光情報の発信と管理	2		
H26	前期	社会思想から現代社会を考える	3	8	
		南紀における教育資源の開発	3		
		現代の金融・証券市場	2		
後期	前期	情報の科学と技術	1	3	
		地球と惑星の気象学	3		
		持続可能な現代社会	6		
H27	前期	地域再生論	4	13	
		紀伊半島の地質とジオパーク	3		
		紀伊半島の環境と生活	2		

南紀熊野サテライト学部授業受講者数					
区分		科目名	受講者数	計	
学部科目	H17	前期	世界遺産と観光	36	52
			安全安心の食べ物	16	
	後期	前期	健康・福祉の実践学	22	22
			紀州の風土と文化	14	
	H18	前期	観光・きのう、きょう、あす	9	25
			ものづくりのための振動・音響学	2	
		後期	現代社会と紙漉き	7	
	後期	前期	くらしの心理学	17	24
			紀伊半島近代文学	8	
			地域再生と観光	11	
	H19	前期	紀州の方言	14	15
		後期	現代社会と紙漉き	1	
	H20	前期	漱石文学と日本の近代	13	25
			近代中国の歩みと日本	12	
	後期	前期	子どもの運動遊びと野外活動	5	18
			コミュニティーと地域福祉	13	
	H21	前期	漱石文学と関西	11	11
		後期	地域づくりと生涯学習	7	
	H22	前期	漱石文学と春夫文学	16	26
			世界遺産保全と遺産観光による地域づくり	10	
		後期	科学を楽しむ	7	
	後期	前期	みんなの科学入門	2	9
			上方落語論	16	
			身の回りのデジタル機器の仕組み	7	
	H23	前期	統計で社会を考える	2	10
		後期	日本の歴史地理	8	
	H24	前期	災害と復興を考える	15	26
		後期	デザイン情報学入門	11	
	後期	前期	エコツーリズム論	6	23
			万葉集にみる古代交通	17	
	H25	前期	紀州郷土学A	32	39
			みんなの科学入門	7	
		後期	紀州郷土学B	32	
	後期	前期	地域暮らしの安全学	14	46
			紀州郷土学C	17	
			地域暮らしの安全学B	15	
	H26	前期	地域暮らしの安全学C	11	56
			紀州郷土学D	18	
		後期	地域づくり戦略論	27	
	H27	前期	紀州郷土学2A	30	42
			地域暮らしの安全学D	12	
		後期	紀州郷土学2B	24	
後期	前期	地域暮らしの健康学A	6	50	
		地域づくり戦略論A	20		

経済学研究科修士課程修了者数

年	人数
H17	
H18	0
H19	1
H20	0
H21	1
H22	0
H23	2
H24	1
H25	2
H26	0

# 南紀熊野サテライトの主な公開講座について

和歌山大学南紀熊野サテライトにおける公開講座の取組みとして、「南紀熊野観光塾」と「サイエンスカフェ」があります。開催日程などは後掲「沿革」の項目をご覧ください。

「南紀熊野観光塾」は、社会人の実践的なリカレント教育の場として観光や地域経営を学ぶもので、「選ばれ続ける地域を考え、30年後・50年後の観光と地域経営を学ぶ塾」を目的に、座学として和歌山大学観光学部の教員等による観光概論を設置し、和歌山大学栄谷キャンパスで行われている観光学部集中講義の一部をインターネット配信により、サテライト・知床・屋久島・軽井沢に配信継ぎする取組みも実施しました。講師に、出口竜也観光学部教授、竹林浩志観光学部准教授、山田桂一郎産学連携・研究支援センター客員教授（当時）を迎え、全国の先進地の経営者やプロガイドが登壇するなど、観光の実践的な学びの機会を提供しました。塾生には、自治体職員・地域住民・観光業従事者・農林水産業・主婦・学校教員・和歌山大学観光学部生など、幅広い業種と世代が同じ教室で地域を考え、具体的に実践するための中核人材育成の機会となっています。概略となる資料はp21・p22に掲載しております。

「サイエンスカフェ」は、講演会形式ではなく、専門家による話題提供ののち、お茶を飲みながら参加者と専門家が自由に語る場である。また、地域において関心の高まるジオパークやツーリズムを題材として「ジオカフェ」を開催しました。

**会場アクセス**

和歌山県立 情報交流センター ビンゴ・ユー  
〒646-0211 和歌山県東牟婁郡新井町 3303-9  
車 丹波橋・上野田線新井 徒歩10分、JR和歌山線 新井駅 徒歩10分  
バス 和歌山大学南紀熊野サテライト 徒歩10分  
和歌山県立 情報交流センター ビンゴ・ユー 徒歩10分、和歌山県立 情報交流センター ビンゴ・ユー 徒歩10分



**和歌山県立 情報交流センター ビンゴ・ユー**  
和歌山県立 情報交流センター ビンゴ・ユー 徒歩10分、和歌山県立 情報交流センター ビンゴ・ユー 徒歩10分

**和歌山県立 情報交流センター ビンゴ・ユー**  
和歌山県立 情報交流センター ビンゴ・ユー 徒歩10分、和歌山県立 情報交流センター ビンゴ・ユー 徒歩10分

**応募要項**

募集人数と費用について

塾生数は30名程度（応募者が多数の場合は抽選となります。ご了承ください。）  
①再募集：全ての塾生に参加が可能なため、18才以上の方  
②会場費：交通費、宿泊費の費用は自己負担となります。  
③バス費用、テキスト代費用など参加費用として費用1万円を別途徴収いたします。  
※応募の可否は変更することはありません。予めご了承ください。

平成 25 年度 南紀熊野観光塾 参加申し込み用紙 FAX 0739-23-3978 メール：naku-office@center.wakayama-u.ac.jp

※下記に、応募要項をご記入の上、9月4日（水）17時までに、FAX送信するか、郵送でお申し込みください。

フリガナ お名前：	年齢：	性別： 男 ・ 女
住所：		
所属：	電話番号：	
電子メール：		

※この申込みの情報は募集の目的以外では使用しません。

**お問い合わせ先**

和歌山大学南紀熊野サテライト  
〒646-0011 和歌山県田辺市津町 3333-9  
和歌山県立 情報交流センター ビンゴ・ユー 102号室  
TEL 0739-23-3977 FAX 0739-23-3978  
http://www.wakayama-u.ac.jp/naku\_kumano

受付時間 10:00～17:00  
(日曜・月曜・祝日休み)

南紀熊野サテライトは、和歌山県に在る地域振興、観光振興を目的として、和歌山大学と和歌山県が連携して運営している施設です。和歌山大学と和歌山県が連携して運営している施設です。

地域を学ぶ場として

和歌山大学南紀熊野サテライト

「南紀熊野観光塾」  
第一期生募集!

募集 30名

平成 25 年度 開塾

—いま、求められる観光中核人材を育てよう。次世代のリーダー育成—

和歌山大学南紀熊野サテライト

「南紀熊野観光塾」  
第一期生募集!

募集 30名

申込締切日 平成25年9月4日（火）

参加条件 全ての塾に参加する意欲のある方  
18歳以上の方（学歴不問）

NEWS  
和歌山大学南紀熊野サテライトは、和歌山県と和歌山大学が連携して運営している施設です。和歌山大学と和歌山県が連携して運営している施設です。

「南紀熊野観光塾」とは、  
「選ばれ続ける地域」をモットーに、南紀熊野のあるべき姿をみんなで考える場です。  
「選ばれ続ける地域」をモットーに、南紀熊野のあるべき姿をみんなで考える場です。  
「選ばれ続ける地域」をモットーに、南紀熊野のあるべき姿をみんなで考える場です。

※下記の方々をお招きの予定です。

観光業従事者	観光機関の若い手	地方公共団体	ジオパーク経営者	産学連携者
観光業内者	まちづくり推進者	旅館経営者	地域振興関係者	地域住民の方
南工関係者	インストラクター	地産地消推進者	ガイド、旅行業	観光に熱心な若手学生

主催：和歌山大学地域創造推進課 南紀熊野サテライト 講師：和歌山県

和歌山で活躍する観光を挙る！



**特別回 記念公演**  
 特別公演 (18:30開演)  
 9月  
 9月15日  
 17:00開演  
 18:30~20:30 (開演18:00)  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**第1回 秋公演**  
 第1回公演 <50分22分>  
 9月  
 9月17日 (土)  
 18:30~20:30 (開演18:00)  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**第2回 秋公演**  
 第2回公演 <60分22分>  
 9月  
 9月24日 (土)  
 18:30~20:30 (開演18:00)  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**第3回 秋公演**  
 第3回公演 <50分22分>  
 9月  
 9月31日 (土)  
 18:30~20:30 (開演18:00)  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**第4回 秋公演**  
 第4回公演 <50分22分>  
 10月  
 10月7日 (土)  
 18:30~20:30 (開演18:00)  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**第5回 秋公演**  
 第5回公演 <50分22分>  
 10月  
 10月14日 (土)  
 18:30~20:30 (開演18:00)  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**第6回 秋公演**  
 第6回公演 <50分22分>  
 10月  
 10月21日 (土)  
 18:30~20:30 (開演18:00)  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**特別回 記念公演**  
 特別公演 (18:30開演)  
 11月  
 11月19日  
 17:00開演  
 18:30~20:30 (開演18:00)  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**特別回 記念公演**  
 特別公演 (18:30開演)  
 12月  
 12月13日  
 午後  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**第7回 秋公演**  
 第7回公演 <50分22分>  
 12月  
 12月20日 (土)  
 18:30~20:30 (開演18:00)  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**第8回 秋公演**  
 第8回公演 <50分22分>  
 12月  
 12月27日 (土)  
 18:30~20:30 (開演18:00)  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**特別回 記念公演**  
 特別公演 (18:30開演)  
 1月  
 1月20日~21日  
 18:28  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**第9回 秋公演**  
 第9回公演 <50分22分>  
 1月  
 1月27日 (土)  
 18:30~20:30 (開演18:00)  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**特別回 記念公演**  
 特別公演 (18:30開演)  
 2月  
 2月1日  
 会場  
 和歌山県立文化センター  
 B14・U 研修室1  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター  
 和歌山県立文化センター

**「南紀熊野観光光る」 意義からひとこと <意の目的>**  
 このたび、結構可能な観光を担う人材の育成を目的とした「南紀熊野観光光る」を開始することになりました。この意では、単に観光を基礎とした地場づくりの先進的な事例を学ぶだけでなく、「南紀熊野地域」が抱える問題、課題を共有し、顧客に選ばれ続けるための方策を探っていきます。また、ワークショップやセミナーでは、疑問の多い本者トークで、お互いに意見を交換していきま。この意を通じて、各地で活躍されている方々の新たなつながりが生まれ、本場の風味が活況化されることを期待しています。観光関係者はもちろん地方公共団体、観光まちづくりに取り組みたい方々も、積極的な受講を心からお待ちしております。

**「南紀熊野観光光る」 意義からひとこと**  
 南紀熊野観光光る 意義：山田 誠一郎 (幸甚なけいいちろう)

**「南紀熊野観光光る」 意義からひとこと**  
 南紀熊野観光光る 意義：山田 誠一郎 (幸甚なけいいちろう)

**「南紀熊野観光光る」 意義からひとこと**  
 南紀熊野観光光る 意義：山田 誠一郎 (幸甚なけいいちろう)

**「南紀熊野観光光る」 意義からひとこと**  
 南紀熊野観光光る 意義：山田 誠一郎 (幸甚なけいいちろう)

**「南紀熊野観光光る」 意義からひとこと**  
 南紀熊野観光光る 意義：山田 誠一郎 (幸甚なけいいちろう)

**「南紀熊野観光光る」 意義からひとこと**  
 南紀熊野観光光る 意義：山田 誠一郎 (幸甚なけいいちろう)

**「南紀熊野観光光る」 意義からひとこと**  
 南紀熊野観光光る 意義：山田 誠一郎 (幸甚なけいいちろう)

**「南紀熊野観光光る」 意義からひとこと**  
 南紀熊野観光光る 意義：山田 誠一郎 (幸甚なけいいちろう)

# 南紀熊野観光塾 カリキュラム

【2014.11.25～2015.2.10】

## 特別回 記念講演

10月  
10月17日  
特別開講は  
一級建築士

特別開講 (四半世紀特別)

『選ばれ続ける地域とは』  
～南紀熊野に学ぶこと～

和歌山県立情報交流センター Big・U 研修室1  
和歌山市 313-9-102  
TEL 09477 (48)  
TEL 09477 3353-9102  
18:30～20:30 (開講 18:00)

## 第1回 塾開塾

11月  
10月25日  
10月26日  
午前・午後

特別開講 (四半世紀特別)

『観光学塾セミナー』  
講師：山田桂一郎 塾長兼 総合責任者

和歌山県立情報交流センター Big・U 研修室1  
和歌山市 313-9-102  
TEL 09477 3353-9102  
10:30～12:30

## 第2回 塾開塾

11月  
11月25日  
11月26日  
午前・午後

特別開講 (四半世紀特別)

『選ばれ続ける地域に必要なこと』  
～自らと他地域との関係～

和歌山県立情報交流センター Big・U 研修室1  
和歌山市 313-9-102  
TEL 09477 3353-9102  
10:00～16:30

## 第3回 塾開塾

12月  
12月27日  
午前・午後

特別開講 (四半世紀特別)

『観光地開拓』 講師：竹村浩志

和歌山県立情報交流センター Big・U 研修室1  
和歌山市 313-9-102  
TEL 09477 3353-9102  
11:00～12:00

『地域経営-付加価値とは』  
講師：山田桂一郎 塾長兼ゲスト

和歌山県立情報交流センター Big・U 研修室1  
和歌山市 313-9-102  
TEL 09477 3353-9102  
12月28日 13:00～16:30

## 第4回 塾開塾

12月  
12月9日  
午前・午後

特別開講 (四半世紀特別)

『観光行動圏』 講師：出口隼也

和歌山県立情報交流センター Big・U 研修室1  
和歌山市 313-9-102  
TEL 09477 3353-9102  
11:00～12:00

『地域資源の商品化について』  
講師：山田桂一郎 塾長兼ゲスト

和歌山県立情報交流センター Big・U 研修室1  
和歌山市 313-9-102  
TEL 09477 3353-9102  
12月9日 13:00～16:30



### 「南紀熊野観光塾」塾長からひとこと <塾の目的>

昨年度に引き続き、持続可能な観光を担う人材の養成を目的とした「南紀熊野観光塾」を開催することになりました。この塾では、単に観光を基軸とした地域づくりの先進的な事例を学ぶだけでなく、「選ばれ続ける地域」をモットーに「南紀熊野地域」が抱える問題・課題を共有し、あるべき姿をみながら、今年度は本当の意味で「観光事業者のみならず、地域住民も観光事業者と一体となって深く検討できるようなプログラム」の充実をはかりました。観光事業者のみならず、地方公共団体、観光まちづくりに取り組んでいる皆さまの積極的な参加を心からお待ちしております。もちろん、第1期生の皆さまの受講も大歓迎です。建前なしの本音トーク全開でたいに意見交換し、交流の輪を広げましょう。

南紀熊野観光塾 塾長：山田 桂一郎 (やまだ けいいちろう)

### 「南紀熊野観光塾」塾長紹介

山田 桂一郎  
和歌山大学 名誉教授、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長

和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長

和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長

和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長

### 「南紀熊野観光塾」講師紹介

出口 隼也  
和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長

出口 隼也  
和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長

出口 隼也  
和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長

### 講師 竹村浩志

竹村 浩志  
和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長

竹村 浩志  
和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長

竹村 浩志  
和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長、和歌山大学 名誉学長

第5回 塾開塾

1月  
1月18日  
午前・午後

特別開講 (四半世紀特別)

『観光地開拓』 講師：山田桂一郎 塾長

和歌山県立情報交流センター Big・U 研修室2  
和歌山市 313-9-102  
TEL 09477 3353-9102  
11:00～12:00

『観光地と資源・環境について』  
講師：山田桂一郎 塾長兼ゲスト

和歌山県立情報交流センター Big・U 研修室2  
和歌山市 313-9-102  
TEL 09477 3353-9102  
1月13日 13:00～16:30

第6回 塾開塾

2月  
2月10日  
午前・午後

特別開講 (四半世紀特別)

『海外から見た熊野』 講師：山田桂一郎 塾長

和歌山県立情報交流センター Big・U 研修室2  
和歌山市 313-9-102  
TEL 09477 3353-9102  
2月10日 11:00～12:00

『世界基準の観光とは』  
講師：山田桂一郎 塾長兼ゲスト

和歌山県立情報交流センター Big・U 研修室2  
和歌山市 313-9-102  
TEL 09477 3353-9102  
2月10日 13:00～16:30

特別回 記念講演

2月  
2月10日  
午前・午後

特別開講 (四半世紀特別)

『どんな地域をめざすのか』  
～未来の熊野のために～

講師：山田桂一郎 塾長

和歌山県立情報交流センター Big・U 研修室1  
和歌山市 313-9-102  
TEL 09477 3353-9102  
2月10日 18:30～20:30 (開講 18:00)



# 沿革

年度	月 日	事 項
2005年度 (平成17年度)	4月 1日	紀南サテライト開設（県立情報交流センター Big・U内）
	4月13日	紀南サテライト連携協議会設立総会開催
	4月23日	紀南サテライト開設記念フォーラム開催
	5月30日	紀南サテライト部企画運営委員会
	6月17日	テレビ会議システムによるオリエンテーション実施（栄谷キャンパス⇄紀南サテライト）
	9月11日	地域防災リーダー育成講座
	9月18日	観光連続講座（第1回）
	9月25日	地域防災リーダー育成講座
	10月 9日	地域防災リーダー育成講座
	10月18日	観光連続講座（第2回）
	10月30日	地域防災リーダー育成講座
	11月12日	観光連続講座（第3回）
	11月13日	地域防災リーダー育成講座
	11月20日	紀南地域の地場（農業ベース）産業の活性化支援事業勉強会
	11月27日	地域防災リーダー育成講座
	12月 4日	U遊祭出展
	12月11日	地域防災リーダー育成講座
	1月28日	受講生の集い（於：紀伊田辺シティプラザホテル）
	2006年度 (平成18年度)	4月 5日
5月19日		連携協議会幹事会（於：和歌山県情報交流センター Big・U）
6月 5日		地域防災リーダー育成講座「紀の国防災人づくり塾」受講生募集開始
8月 6日		防災講座開始
10月 7日		金融講座開始
11月 2日		IT活用シンポジウム参加発表（於：Big・U）
11月19日		防災講座終了 高知県幡多に大学をつくる会事務局視察団来訪（20日まで）
12月 1日		U遊祭参加出展（於：Big・U）
2月25日		地域発展学習セミナー（「人が育ち・地域を創る生涯学習」―地域・住民と自治体は大学に何を求めているか―）実施
2007年度 (平成19年度)		4月 6日
	7月28日	紀南サテライト同窓会交流会
	9月19日	黒潮経済圏4大学シンポジウム開催
	9月27日	観光学講座（那智勝浦町）
	10月 4日	観光学講座（田辺市）
	10月13日	金融経済講座スタート
	10月19日	観光学講座（御坊市）
	10月20日	U遊祭参加出展（Big・U）
	2月13日	新庄小学校紀南サテライト施設見学
	2月24日	地域と大学の協働による地域づくり（田辺会場）
	3月 7日	FMビーチステーション出演（受講生募集告知）
	3月 8日	くらしに身近な金融講座19年度終了
	3月13日	ビッグユウ消防訓練参加
	3月19日	生涯学習メッセ
	3月20日	市民活動まつり参加
2008年度 (平成20年度)	7月 5日	紀南生涯学習研究会（仮称）企画会議
	10月 2日	北海道大学と和歌山大学との包括連携に関する協定に基づく連携協議会（10月3日まで）
	10月11日	くらしに身近な生活講座第1回
	10月23日	全国国立大学生涯学習系センター協議会参加（24日まで）

年度	月 日	事 項
	11月 9日	くらしに身近な生活講座第2回
	12月13日	くらしに身近な生活講座第3回
	1月10日	くらしに身近な生活講座第4回
	2月 1日	地域広報力向上セミナー共催
	2月11日	わかやま“元気”一万人フェスタ・紀南ブース運営協力
	2月22日	しんぐう元気フェスタブース出展
	2月27日	ICT産業による地域活性化シンポジウム・ポスターセッション出展
	3月 7日	紀南サテライト公開講座「和歌山から文化を学ぶ! ～上方落語論～」
	3月28日	第7回地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー（生涯学習教育研究センター主催）共催
	3月29日	紀南サテライト修士論文発表会・記念講演会、シンポジウム「木質バイオマスと地域づくり～岡山真庭の事例と田辺の交流」開催
2009年度 (平成21年度)	4月22日	第15回特別支援教育フォーラムテレビ中継（栄谷～紀南サテライト）（5月、6月）
	6月27日	日本ボランティア学会2009年度
	7月22日	皆既日食中継Big・U会場
	8月18日	北海道大学・帯広畜産大学視察受け入れ
	8月27日	紀南地域廃校舎調査同行（経済学部中村研究室）
	9月 4日	「FM TANABE」で後期受講生募集広報
	9月 9日	紀南サテライトみらい戦略チーム会議第1回
	9月12日	公開講座「～観教産業ひとつくり塾～地域産業クラスター入門」第1回
	9月30日	特別支援教育コーディネーターフォーラム（Big・U会場）
	10月10日	公開講座「～観教産業ひとつくり塾～地域産業クラスター入門」第2回
	10月24日	公開講座「～観教産業ひとつくり塾～地域産業クラスター入門」第3回
	11月22日	和大祭サテライトブース展示
	12月 3日	大学等地域貢献促進事業「過疎高齢化集落における現状と課題の把握」研究に関する打合せ（田辺市大塔行政局）
	12月 9日	大学等地域貢献促進事業「過疎高齢化集落における現状と課題の把握」研究に関する打合せ（田辺市三川連絡所）
	12月11日	学内「紀南サテライト実地見学」&意見交換会
	12月13日	和歌山放送「ワダイのわだい!」にて紀南サテライトの紹介
	12月18日	大学等地域貢献促進事業「過疎高齢化集落における現状と課題の把握」研究に関する打合せ（大塔拠点公民館三川分館運営委員会）
	12月24日	大学等地域貢献促進事業「過疎高齢化集落における現状と課題の把握」研究に関する打合せ（湯浅町立図書館）
	1月27日	特別支援教育コーディネーターフォーラム（Big・U会場）
	2月14日	「しんぐう元気フェスタ'10」紀南サテライトブース出展
	2月16日	「FM TANABE」で次年度前期受講生募集広報
	2月20日	第8回地域発展学習プログラムの開発と実施に関するセミナー（生涯学習教育研究センター主催）共催
	2月26日	文部科学省生涯学習政策局政策課視察受け入れ
	3月 6日	紀南サテライト公開講座「世界遺産・保全と観光」
	3月21日	第3回市民活動まつり運営協力
2010年度 (平成22年度)	4月17日	気候変動防止システム研究協議会打合せ（古座川町）
	4月20日	地域貢献機能の充実を図るためのプロジェクト事業相談受付
	5月26日	第25回特別支援教育フォーラムテレビ中継（栄谷～紀南サテライト～みくまの支援学校）
	5月29日	気候変動防止システム研究協議会（那智勝浦町）参画
	6月 1日	APEC・WLNエクスカースションに関する挨拶と打合せ（堀内理事 - 真砂田辺市長 - 多田田辺市熊野ツーリズムビューロー会長）
	6月 8日	紀南サテライト連携協議会

年度	月 日	事 項
	6月10日	APEC・WLNエクスカーションに関する挨拶と打合せ（帯野理事 - 真砂田辺市長 - 多田田辺市熊野ツーリズムビューロー会長）
	6月23日	第25回特別支援教育フォーラムテレビ中継（栄谷～紀南サテライト～みくまの支援学校）
	6月25日	地域貢献機能の充実を図るためのプロジェクト事業「民産官学連携による地域公共交通の効率的構築・維持に向けた実践的活動と地域貢献機能の充実」第1回研究会参画 田辺湾におけるアマモ調査同行（システム工学部）
	6月26日	日本ボランティア学会2010年度大会にて事業報告・挨拶
	6月28日	地域生涯学習事業開発プロジェクト第1回研究会参画
	6月30日	地域貢献機能の充実を図るためのプロジェクト事業「民産官学連携による地域公共交通の効率的構築・維持に向けた実践的活動と地域貢献機能の充実」和歌山市有功地区打合せ
	7月27日	きのくに活性化センター総会
	9月14日	神戸大学からヒアリング
	12月22日	地域型大学サテライト拠点情報交換会2010 in 和歌山大学・南紀熊野「地域と共に発展する大学へ。まなぶ・つながる・ささえあう地域型サテライトの役割と戦略を考えよう！」開催
	12月23日	和歌山大学南紀熊野サテライト5周年記念事業「南紀熊野でワダイを発信―地域から宇田まで―」開催
	2月 6日	放送大学との連携公開講座「地域資源の再発見!」+合同の受講生募集説明会
	3月 4日	和歌山大学運営発展課題研究調査（金沢大学）
	3月15日	和歌山大学運営発展課題研究調査（北海道大学・酪農学園大学）
	3月22日	公用車配置
2011年度 (平成23年度)	4月11日	災害対策研究支援調査事業田辺市社会福祉協議会聞き取り調査
	6月18日	「まちびと学会」の開催支援（串本町潮岬青少年の家）（～19日） 内閣府「世界青年の船」事業の地方プログラム（上富田町）トルコ、バーレーン、本学学生との意見交換会支援
	7月	地域型大学サテライト拠点情報交換会の継続的発展に向けて「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」を実施 独創的研究支援プロジェクト「地域を支え、地域に支えられる大学づくりプロジェクトでの地域ニーズ調査及び、研究調査支援
	7月 6日	同プロジェクト「民産官学による地域公共交通の効率的構築・維持に向けた実践的活動と地域貢献機能の充実」への参画、7月6日初回会議、報告書「白浜町生活交通ネットワーク計画」が完成
	7月30日	秋津野地域づくり学校（株式会社社農業法人秋津野）への参画（～2月26日）
	9月11日	県教育委員会「マナビイスト支援セミナー」企画ゼミに参画
	9月14日	本学東日本大震災・紀伊半島豪雨災害支援対策本部の分室として位置付けられる 「しんぐう元気フェスタ2012くまのがわ」に南紀熊野サテライトブース出展、学生写真修復プロジェクトの後方支援を実施 災害対策研究支援調査事業「災害時におけるボランティアの組織化とあり方に関する研究～台風12号災害における地域の災害ボランティアの動向を通じて～」への参画 災害対策研究支援調査事業「インターネットを利用した平成23年度台風12号災害情報のデジタルアーカイブ」 災害対策研究支援調査事業「台風12号災害発生後の孤立集落の対応課題に関する研究」（防災セ・照本先生）を通じた東日本大震災被災地への視察とヒアリング訪問
	10月31日	「湯浅誠×藤敷庸一トークセッション 共に生きる、脱貧困と社会的包摂 災害との地域づくりを考える」企画の協働プロデュース
	11月 8日	伝統食文化ブラッシュアップ事業研究会（わかやま産業振興財団助成事業）にて商工観光関係者等とめはりずしをベースとした新郷土食開発に向けた研究会に参画、1月19日モニター試食会
	11月26日	「和大同窓会」地域OB、OG同窓会、サテライト同窓会との交流会支援（田辺市）
	12月15日	「和歌山県におけるジオツーリズム自然教育価値創造事業」に参画、第1回地域研究会
	12月 1日	「わかやまNPOセンター」社会企業家の交流事業での講話、開催支援

年度	月 日	事 項
	12月15日	中国、山東大学教授と南紀熊野サテライト大学院受講生と日中の経済、社会問題について意見交換会
	1月16日	白浜町バス利用調査研究
	2月19日	平成24年度南紀熊野サテライト連携協議会公開講座「災害と復興～これからの減災を考える～」&受講生募集説明会
	2月14日	和歌山県教育委員会「繋」パーソンねっとわーく事業への参画
	3月13日	第10回地域発展学習プログラムの開発と実践に関するセミナー（新宮市）開催支援
	3月24日	パネル討論会「わかやまNPOセンター」「農家のこせがれネットワーク」開催支援 和歌山大学南紀熊野サテライト修士論文報告会（山崎氏）、記念講演 南紀熊野サテライト同窓会の役員交流会 和歌山大学運営発展課題の研究調査としてサテライト機能を持つ大学、地域課題の共同研究の仕組みを持つ大学、地域と連携する学生教育を展開する大学、地域貢献の先進的の大学への視察を実施（長崎大学、北九州市立大学、秋田大学、岩手県立大学、岩手大学） 金沢大学（大学院のシステム）、岩手大学（地域型サテライト）の視察受け入れ マナビイスト支援セミナーの支援 U遊祭参加出展、出張土曜楽校（於：Big・U）
	3月31日	和大学生なら南紀熊野で学べ！「現物教育プロジェクト成果報告会」
2012年度 (平成24年度)	5月 5日	金環日食講演会「直前対策講座5月21日早朝、金環日食を見よう!」（田辺市）550名が参加
	5月13日	金環日食講演会「直前対策講座5月21日早朝、金環日食を見よう!」（串本町）150名が参加、同日串本町大島にて「宇宙カフェ」を開催 「宇宙カフェ @南紀熊野」（串本町大島）
	6月23日	日本社会教育学会関西6月集会で災害支援の取り組み報告「台風災害と地域・大学連携と役割」
	7月 5日	地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナーに参画（～6日）
	7月25日	デンマークコペンハーゲン商学院の視察受け入れ
	7月26日	旧クラスター推進協議会事業「熊野癒し・怪し・蘇りの地活用事業」への参画、田辺市内天神児童館にて「小学生への妖怪講座（自然環境や民話伝承について）」を開催
	8月16日	保健管理エンター「多文化共生を学ぶ南紀熊野研修」現地支援（～17日）
	8月 2日	東日本大震災被災地への視察、ヒアリング調査（復旧状況、災害1年後の仮設住宅生活課題について）（～5日）
	8月29日	学生ボランティア団体FORWARD、紀伊民報、との連携事業「台風12号災害1年後の課題アンケート」訪問調査（～31日）
	9月12日	南海フェリー & 和歌山大学&四国大学の連携事業「カルチャー Ship」船上にて「南紀熊野の魅力と和歌山の活動について」講演
	9月 9日	南紀熊野サテライト連携協議会平成24年後期公開講座&受講生募集説明会「今こそエコツーリズム」開催、記念講演「エコツーリズムの考え方・活かし方～宝探しから持続可能な地域づくりへ～」
	9月29日	歴史カフェ「移民の歴史」 和歌山大学紀州経済史文化史研究所と連携して企画展を実施（和歌山情報交流センタービッグ・ユー）
	10月 2日	和歌山大学紀州経済史文化史研究所と連携して企画展を実施（田辺市文化交流センターたなべる）
	10月13日～ 14日	平成24年教育改革推進事業「現物教育プロジェクト」での学生演習、調査の現地支援「串本町・旧古座町における「原発反対運動」のあゆみと「第5福竜丸」についての聞き取り調査」
	10月14日	田辺周辺・和歌山大学四学部同窓生の集い、記念講演「和歌山をジオツーリズムで活性化するために」講師、中串准教授
	11月 2日	韓国公州大学の視察受け入れ
	11月 3日	旧クラスター推進協議会事業「熊野癒し・怪し・蘇りの地活用事業」への参画、「語り部&妖怪と歩く田辺市街地まち歩き」を開催
11月 8日	出張ジオカフェ（通算第2回）、まちかどサテライトにて中串准教授（和歌山市）	
11月10日	システム工学部生と明治学院大学経済学部生の合同ゼミの現地支援（田辺市）	

年度	月 日	事 項
	11月17日	平成24年教育改革推進事業「現物教育プロジェクト」での学生演習、調査の現地支援「火焚祭と伝統の古座獅子の伝承」についての聞き取りと映像保存
	12月 2日	防災・日本再生シンポジウム「紀伊半島大水害の経験を踏まえ、これからの地域防災を考える～地域と大学の協働による東南海・南海地震対策～」開催支援
	12月 3日	本学広報室学生チームプリズム、学内広報誌「アヴェニール」南紀熊野特集の取材協力
	12月 8日	ジオカフェ（通算第3回）、此松教授（田辺市）
	12月20日	ジオツーリズムシンポジウム「和歌山ジオツーリズム自然教育価値創造事業」事業報告会&意見交換会、同日「ゲストと語るジオカフェ」も同時開催
	2月16日	南紀熊野サテライト連携協議会平成25年前期公開講座&受講生募集説明会、記念講演「紀州郷土学～紀伊半島の恵みと災害～」
	2月22日	留学生対象学部科目「JAPAN STUDY II」南紀熊野エクスカージョン企画、現地支援（～23日）
	3月 1日	南紀熊野ジオパーク構想地域ジオツアー（モニターツアー）の現地支援（和歌山県主催、南紀熊野ジオパーク推進協議会、和歌山大学協力）（～2日）
	3月 6日	京都南丹市地域市民活動グループ視察受け入れ
	3月 9日	JRきのくに線で津波から命を守るためのプロジェクト事業、避難訓練を実施（串本～新宮間）
	3月16日	漱石カフェ、恩田雅和（天満天神繁昌亭支配人）
	3月23日	和歌山大学南紀熊野サテライト修士論文発表会、記念講演「家庭用品産業のまち海南の今昔～産地の変化を考える～」
	3月30日	落語カフェ、恩田雅和（天満天神繁昌亭支配人）
2013年度 (平成25年度)	4月21日	きのくに活性化センター 10周年記念式典及び祝賀会、開催支援
	6月 8日	ジオカフェ「ジオパークって実際どうなんですか？」
	6月18日	デジカフェ「Evernote講座」と「Gmail講座」
	7月20日	ジオカフェ「みんなで作ろう！わかやまごころ」のジオツアー
	7月26日	宇宙バー「あなたと星と音楽と」 和歌山大学保険管理センター扇ヶ浜海水浴場にてメンタルヘルス調査、活動支援（田辺市）
	7月27日	アート田辺に協力、観光学部永瀬ゼミ「まちのヒミツ☆発見隊」「通り×STORY」プロジェクト現地支援
	8月22日	和歌山大学保険管理センター「南紀熊野メンタルヘルス研修会2013」現地支援（本宮町、那智勝浦町、太地町）（～23日）
	8月25日	南紀熊野サテライト連携協議会H25年度後期公開講座&受講生募集説明会、記念講演「熊野の祭りと古座流獅子舞」「地域くらしの安全学」 和歌山県電子自治体推進協議会情報系e-ねっと共同利用WG、Big・U活用検討サブワーキンググループ会議に参画、南紀熊野サテライトの活動紹介を行った。
	9月 6日	南紀熊野観光塾2013開塾記念講演「選ばれ続ける地域とは～なぜ地域振興に観光が必要なのか～」（田辺市） 県教育委員会地域課題解決プロジェクト支援事業、西牟婁地域研修会に参画
	9月12日	学内教職員研修の視察受入、現地支援（～13日）
	11月23日	和歌山大学経済学研究科修士課程進学相談会 高知短期大学経済学クラブの視察受入と南紀熊野サテライト社会人受講生との交流会
	11月28日	第二回地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー（～29日）
	12月	「地域を守り抜く力！」～災害に強い紀伊半島を共に～防災講演会開催（運営協力） 和歌山大学南紀熊野サテライト修士論文発表会（田伏）、退官記念講演（大泉英次経済学部教授、鈴木裕範教授）
	12月 1日	南紀熊野ジオサイト見学・学習会
	12月19日	「最先端次世代研究開発支援プログラムによるワークショップ、エクスカージョンアジア都市農村計画・交流事例収集」現地支援（～22日） 南紀熊野観光塾2013開塾記念講演「これまでの観光とこれからの観光～南紀熊野がめざすこと～」（古座川町）（～23日）
	1月21日	南紀熊野サテライト連携協議会H26年度前期公開講座&受講生募集説明会、記念講演「平成23年台風12号による和歌山県内の土砂災害～地形・地質から見た特徴～」「世界遺産と景観保全」

年度	月 日	事 項	
2014年度 (平成26年度)	6月29日	和歌山大学オープンキャンパス&大学説明会（入試課）開催支援	
	8月31日	南紀熊野サテライト連携協議会平成26年後期公開講座&受講生募集説明会、記念講演「TPPの農業への影響と食の安全・安心」「印南町の雑賀踊りから考える」	
	9月19日	和歌山県東牟婁教育支援事務所主催、地域課題解決プロジェクト支援事業第2回企画会議で活動紹介「和歌山大学サテライトについて」意見交換会（那智勝浦町教育委員会）	
	10月11日	平成26年教育改革推進事業OSMとローカルWikiを活用した地域資源の情報発信によるリーダー育成事業での田辺市街地ネット地図説明会の開催支援	
	10月17日	平成26年度前期大学院科目等履修生授業開始	
	10月17日	南紀熊野観光塾2014特別講演「選ばれ続ける地域とは」～南紀熊野に必要なこと～	
	11月 8日	和歌山大学経済学研究科修士課程進学相談会	
	11月20日	地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー「第3回地域と大学を繋ぐコーディネーターネットワーク構築事業」に参画（～21日）	
	11月25日	南紀熊野観光塾第1回塾講演、観光学セミナー「真の観光立国とは」 南紀熊野観光塾第二期生の開塾式、秋津野ガルテン	
	11月26日	南紀熊野観光塾第2回塾講演、「選ばれ続ける地域に必要なこと～1日丸ごと山田ゼミ～」	
	12月 2日	南紀熊野観光塾第3回塾講演、「地域経営・付加価値とは」	
	12月 9日	南紀熊野観光塾第4回塾講演、「観光行動論」「地域資源の商品化」	
	1月13日	南紀熊野観光塾第5回塾講演、ジオツアー、「ジオツーリズム、エコツーリズム」「観光地と資源・環境」 第7回ジオカフェ「ガイドのお仕事～ジオガイドとエコガイドの役割～」(古座川町)	
	2月10日	南紀熊野観光塾第6回塾講演、「海外からみた熊野」、特別記念講演「どんな地域をめざすのか～未来の熊野のために～」	
	2月14日	南紀熊野サテライト同窓会企画シンポジウム「つながりあえる社会へ～無縁社会を超えてから」開催支援	
	2月28日	南紀熊野サテライト連携協議会平成27年前期公開講座&受講生募集説明会、記念講演「ネットのトラブル・犯罪・依存から子供を守るために」「南紀熊野ジオパークを考える」 那智勝浦町教育委員会、小学生、保護者の視察受け入れ、広報室学生チームと交流支援	
	3月 6日	田辺市教育委員会主催の防災キャンプ推進事業に参画	
	3月16日	防災プロジェクト事業「観光地防災、紀伊田辺駅・味光路からの避難経路のマッピングについて」平成26年教育改革推進事業OSMとローカルWikiを活用した地域資源の情報発信によるリーダー育成事業、防災研究教育センターと共催 きのくに活性化センター企画運営委員会など会議へ参画 きのくに活性化センター事業「廃校舎の利活用と地域再生」「サンマ食文化調査事業」へ参画	
	2015年度 (平成27年度)	5月16日	第8回ジオカフェ「ジオパークってなに？～地域資源を見直すジオパークの魅力を考える～」
		6月13日	第9回ジオカフェ「ジオパークココだけの話～ジオパークの本当に面白い伝え方～」
6月20日		第10回ジオカフェ「ジオツーリズムという異文化交流～ジオ人とふつうの人がわかりあえるために～」	
8月 9日		平成27年度後期公開講座&受講生募集説明会	
9月11日		第4回「地域と大学を繋ぐコーディネーターのための研究実践セミナー」参画（～12日）	
10月22日		10周年記念事業「藻谷浩介氏とまちあるぎ」（田辺市街地）	
12月13日		南紀熊野サテライト10周年記念式典	

## サテライトの今後に向けて

和歌山大学南紀熊野サテライトは、2005年の設置以来、大学の研究・教育機能やシンクタンク機能を活用し、紀南の地域づくりに貢献する「大学の地域ステーション」をめざし、住民自らの地域を見つめ、地域を変える活動を支援し、地域と融合した「新しい知の拠点」をめざして活動しております。この大きな目的のため、これまで私たちは和歌山県、周辺自治体等から成るサテライト連携協議会及び本学の地域創造支援機構と連携しながら、学部・大学院科目の開講に加え、事業部門・調査部門・ネットワーク部門それぞれにおける様々な事業を実施してまいりました。

とりわけ本年は、設立10周年の節目を迎えることから、和歌山大学の第3期中期目標のなかで、これまでの事業をより発展させ、今後のサテライトの方向性を「みらい戦略アクションプラン第3期計画」として策定することとしています。

また、本年、和歌山大学が「平成27年度地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択されたことや“地域と融合する大学”を推し進めるべく「地域活性化総合センター」を設置した経緯もございます。このような大きな流れの中で、和歌山大学がより地域と向き合い、地域から求められる大学としての役割を果たしていくため、この南紀熊野サテライトを紀中・紀南地域における最前線の軸として、特に以下のような活動に取り組んでまいりたいと考えております。

- 一 地域住民の方の教育ニーズに対応した高等教育を、内容を充実して引き続きすすめる。これまで、南紀熊野サテライトにおける教育研究活動に関わっていただいた方の大半は西牟婁地域在住（田辺市、白浜町、他）である一方、東牟婁地域の自治体や教育委員会から、東牟婁地域での大学活動の拠点整備を要望する声がございますので、今後の東牟婁地域への教育活動についても重点的にすすめる。
- 二 生涯学習的な役割として、これまでと同様、連携協議会構成団体や同窓会と協議を深め、より地域ニーズにあった事業を展開していく。
- 三 共同研究・事業の取組みが相対的に進んでいない現状を見直し、地域、自治体、企業等と連携した地域活性化に資する事業（観光関係や防災関係等）の実施を重点的にすすめる。
- 四 中学・高校等への情報発信を引き続き強め、和歌山大学に対する興味関心をもっていただく活動に努める。（例：スーパーサイエンスハイスクール校指定などを機に高校との連携を強める。）
- 五 紀中・紀南地域における本学教員・学生の活動が今後より活性化される見込みのため、それらの活動を積極的にサポートし、より地域の皆様に大学を身近に感じていただけるよう、懸け橋としての取組みをすすめる。

引き続き、和歌山大学南紀熊野サテライトをよろしくごお願い申し上げます。

## 和歌山大学南紀熊野サテライト 開設 10 周年記念誌

---

発行 2015年12月  
和歌山大学南紀熊野サテライト  
〒646-0011  
和歌山県田辺市新庄町3353-9 和歌山県立情報交流センター Big-u内  
TEL 0739-23-3977  
FAX 0739-23-3978  
URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/nanki-kumano/>

印刷所 中和印刷紙器株式会社  
〒640-8225 和歌山市久保丁4丁目53